

1 基本情報

施策名	2 - 2 みどりが価値を生み出すまちづくり				戦略名	みどり活用プロジェクト			
担当	主担当部	市民環境経済部	主担当課	環境課					
	部長名	湯浅 章吾	関係課	教育支援課					

2 取組目標 (Plan)

取組目標	●豊かなみどりが生み出すきれいな空気や静けさといった白井市の良質な環境を、市民とともに守り、育むことで、愛着と誇りを持てるまちづくりを進めます。
------	--------------------------------------------------------------------------

3 平成29年度取組状況 (Do①)

取組1 地域での環境保全や創出の取組みとしてのグラウンドワーク(※)の推進						
取組方針	みどりの地域資源を守り、育む活動など、地域や市民団体等が連携した取組みを進めます。 ※市民、市民団体、事業者及び市が連携して地域の環境保全の取組みを行う活動で、生活の現場（グラウンド）に関する創造活動（ワーク）のこと。					
取組内容	<ul style="list-style-type: none"> 市民の森の保全、市民とともにみどりの資源を育む活動を促進するため、市民と触れ合う機会の少ない神々廻市民の森において、市民団体と協働で入口付近の花壇づくりを継続して行った。また、神々廻市民の森の看板等の改修を白井高校美術部生徒の協力を得て実施することとした。（平成30年度に継続して実施） 千葉大学と協力し、大学院の授業の一環で、神々廻市民の森を舞台として、小学生を対象としたイベントを企画、実施した。 					
構成事業	事業No	事業名	評価	事業No	事業名	評価
	30	森のグラウンドワーク推進事業	改善して継続			

取組2 白井の自然環境の豊かさを知り育むための環境学習の推進

取組方針	学校や市民団体等と連携し、みどりが形成されてきた歴史やその貴重さなどに関する学習機会を充実します。					
取組内容	<ul style="list-style-type: none"> 市民に環境との関わり合いについて関心を持ってもらい、環境保全活動の契機としてもらうため、市民団体等と協働で環境フォーラムを開催した。（体験活動とパネル展示） 市民団体と共催で夏休み子ども環境学習を実施した。（筑波宇宙センター、筑波実験植物園） 市民活動団体と協働で谷田・武西の原っぱでの生き物観察会等の環境学習（全11回）と、神崎川上流での生き物観察会等の環境学習（全3回）を実施した。 市内のイベントにおいて市内の水生生物を展示した。市内に生息するホタルの調査、生息場所再生の資料とするためホタルの試験飼育を行った。 					
構成事業	事業No	事業名	評価	事業No	事業名	評価
	31	環境学習推進事業	改善して実施			

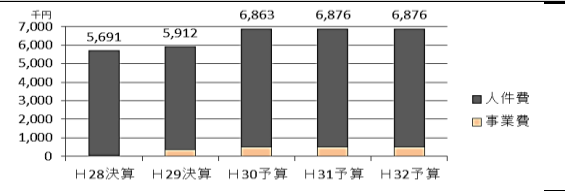
4 施策展開の状況 (Do②)

改善した取組	<ul style="list-style-type: none"> 市民の環境保全に対する意識が更に高まるよう、従前から行っている夏休み子ども環境学習に加え、新たに市民活動団体2団体と共催で環境学習を企画した。 ふるさと祭り、ホワイトフェスティバル等のイベントに出展し、サワガニ等の水生生物を展示し、市内に貴重な自然が残されていることをPRした。 					
他分野・他施策との連携	各小中学校の教育計画に基づいて、学習や体験等を取り入れた授業の実施について、小学校2校と実施に向け協議した。					

5 施策推進コスト(Do③)

(千円、%)

	H28決算	H29決算	H30予算	H31予算	H32予算
事業費	14	347	503	516	516
人件費	5,677	5,565	6,360	6,360	6,360
合計	5,691	5,912	6,863	6,876	6,876
プロジェクト内割合	31.5	26.8	22.6	9.8	8.4



6 1次評価(Check①&Action①)

定量的評価	施策指標名	単位	基準値/基準年度		目標値	実績値					
					H32年度	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	
	白井のみどりの環境を自慢に思う市民の割合	%	-	-	72.1	72.1	77.8				
	地域の環境保全活動に参加している市民の割合	%	-	-	44.0	33.8	24.1				
定性的評価	市の良質な環境を市民と守り育てることで、愛着と誇りの持てるまちづくりを進めるため、H29年度は、身近な自然環境への興味、関心を高められるよう、市民団体2団体と共催で環境学習講座を年間計14回実施するとともに、大学との連携により神々廻市民の森でイベント実施するなど、より多くの市民に、市内の自然環境への興味、関心を高めるきっかけづくりができた。						<input type="checkbox"/> 順調 <input checked="" type="checkbox"/> おおむね順調 <input type="checkbox"/> やや遅れている <input type="checkbox"/> 遅れている				
課題	喫緊の課題				中長期的な課題						
	自然環境の良さ、自然環境の保全について市民の満足度は高いが、市民が白井市内の身近な自然環境について、もっと知り、興味・関心が持てるよう、さらに認知度を高める必要がある。				市民が市内の自然環境を理解し、市民と市が協働で自然環境を守り、育てていく必要がある。						
施策の方向性(改善策)	短期的な方向性				中長期的な方向性						
	市内の豊富な自然を有する森に対する市民の認知度を高めるため、神々廻市民の森で市民団体等とグラウンドワーク活動を実施する。市民が市内の身近な自然環境に興味・関心を持てるよう、みどりが形成されてきた歴史や貴重さなどに関する学習機会を充実するとともに、市民団体が実施する環境学習を支援し、共催で実施する。第一段階として、小中学校の授業の一環で環境学習を実施することを検討していく。				市民が市内の自然環境をより理解できるよう、神々廻市民の森でのグラウンドワーク活動を他にも広げていく。環境学習を通じて、市民が自然環境への興味・関心を高め、市民と行政が協働で自然環境を守り、育てていく。						
施策を取り巻く環境の変化	市街化調整区域の開発について、平成26年度から規制することとなったが、太陽光発電施設の設置に伴う林地開発などにより森林面積が減少している中、市民の自然環境への興味・関心を高め、みどりの地域資源を守り、育てる活動を地域や市民団体等と行政との協働で取り組むことが求められている。										
市民と行政の役割分担・協働	<input type="checkbox"/> 行政の役割を拡大 <input type="checkbox"/> 現在の行政と市民の役割分担・協働を維持 <input checked="" type="checkbox"/> 市民の役割・協働を拡大										
	森のグラウンドワークについては市民と行政との協働で進めている。環境学習についても、既に市民団体が行っている環境学習への支援や市との共催での実施など、今後さらに連携して協働で進めていく。										

7 2次評価(Check②&Action②)

白井市行政評価委員会による評価

- ・土地所有者を含めた市民の環境保全に対する意識が更に高まるよう、引き続き啓発等に努めること。
- ・平成30年5月に開所した「しろいまちづくりサポートセンター」に登録する市民活動団体等と連携して、環境保全活動を実践する市民・市民団体の裾野を広げていくこと。

8 3次評価(Check③&Action③)

総合計画審議会による評価

- 総合評価は、A・B・C・Dの4段階のうち「B(優れている)」とし、今後に向けて以下の改善点を提案する。
- ①みどりの価値について、現状を維持・保全していくものなのか、付加価値を見出してさらに発展させていくものなのか、白井の環境価値の位置付けを、さらに深堀していくこと。
 - ②環境保全活動に対する市民の認知度が低いため、これまで以上に広く市民に周知していくこと。また、より積極的に地域と連携した活動を展開していくこと。
 - ③ゴミ拾いやキャンプなど日常生活の中で環境保全活動との接点を作ることで環境保全活動への入り口や場を充実させ、市民に親しみやすい取組とする工夫をしていくこと。
 - ④地域の慣習・歴史に対する市民の関心を高めることにより、地域の環境に興味を持ってもらうような工夫をしていくこと。

9 3次評価の改善意見等への対応

- ①みどりを保全していく部分と、付加価値を見出す部分を明確にして、環境審議会にて白井の環境の位置付けを検討したうえで、白井の環境の位置付けをまとめ、環境白書等に掲載しPRするとともに、活用できるようにする。
- ②若い世代をターゲットとして、SNS等を活用して日常的に環境保全活動をPRするとともに、しろいまちづくりサポートセンターと連携して、市民活動団体による環境保全活動をPRしていく。また、市民活動団体等と協議し、地域と連携した活動の展開を目指す。
- ③日常生活の中で環境保全活動との接点を作り、環境保全活動への入り口の拡大や場の充実を目指す。
- ④地域の環境に、さらに興味を持ってもらえるように工夫した内容の講座等の開催を目指す。